

問題 I

以下の問題文の空欄 (01) (02) から (23) (24) に入る最も適切な語句を語群の中から選び、その番号を解答用紙の所定の欄にマークしなさい。

人類は、古くから香辛料や香料を使用し、古代の各地域でそれらに関するさまざまな記録を残してきた。

(01) (02) が著した『地理誌』には、古代ギリシア・ローマ世界における香料に関する記述が頻繁に見出される。そのひとつが現在のイラン東部にあたる地方における甘松香と没薬に関する記述である。同書において、それらは、芳香を発するのみならず、健康の増進にも役立ち、その地方を転戦中のマケドニア軍により屋根や寝床の設営のためにも活用されたとされている。また、このマケドニアのアレクサンドロス大王の後継者の一人で、現在の西アジアの大部分を統治した (03) (04) が香辛料の一種をアラビアに移植しようとしたことが伝えられている。(03) (04) は、当時インド北部を支配していた (05) (06) の宮廷にメガステネスを使節として派遣したが、メガステネスは香辛料を使用したインドの食事についての記録を残している。ところで、現在でも香辛料は医薬として用いられることがあるが、古代ローマでも同様の使用例がある。たとえば、『博物誌』を著した (07) (08) が挙げている強壯薬には香辛料が含まれている。

中国においても、香料に関する歴史的記述が見出される。その一例として、後漢初期の歴史家班固が『兩都賦』の中でおこなっている「椒房」への言及が挙げられる。7世紀に『漢書』に注釈を施し、『五經正義』の編纂に参加した (09) (10) によれば、「椒房」という建物は壁土に山椒を混ぜて、芳香を楽しめるようにしたものだという。また、班固と同じ後漢時代の張仲景がその原著者であるとされている (11) (12) の中に挙げられている植物には芳香性のものが多く見られる。

このように古くから使用されていた香辛料や香料は重要な商品であり、そのことを示す史料も多数存在する。たとえば、旧約聖書の『創世記』にはギレアドからエジプトへ向かう隊商が登場するが、その隊商の商品には没薬などが含まれている。また、1世紀中葉に著された航海案内書である『エリュトゥラー海案内記』には、エジプト経由での胡椒の貿易に関連した記述が見られ、これはこの時期にアラビアとインドを結ぶ航路が存在したことを示すものと解されている。実際に、ローマ人は紀元前後にインドの王朝との間での胡椒取引をおこなっていたようである。

中世以降の香辛料や香料の貿易についても豊富な記録が残されている。たとえば、マルコ＝ポーロは、彼の見聞録の中で「キンザイ」（または「キンサイ」）という名で紹介している港市 (13) (14) における繁栄を語る際に、その都市における胡椒の消費量の大きさにも言及している。これは、輸入される奢侈品としての胡椒の消費量がそのまま経済的繁栄の指標であると、彼がみなしたからであるとも考えられる。ただし、このような個々の記録を論ずるよりも重要なことは、多くの記録を通観し、歴史の中で展開された香辛料貿易の独占をめぐる諸勢力のせめぎ合いを理解することである。

インド洋を舞台とする交易については、8世紀頃から活躍を始めたムスリム商人が、やがて香辛料貿易を独占するようになったことが明らかにされている。12世紀頃からのインド洋と地中海を結ぶ交易活動の中心は、 (15) (16) 人のサラディンが樹立したアイユーブ朝の首都カイロとなるが、その時期の地中海貿易の主役は、ヴェネツィアとジェノヴァの商人であった。そして、この地中海貿易の花形商品は香辛料であり、特に、ヴェネツィア商人は、地中海における（そして、それは事実上ヨーロッパにおける）胡椒貿易のほとんどを独占していたのである。

ヴェネツィア商人による胡椒貿易の独占状態は、大航海時代の到来とともに失われた。まず、ポルトガル王が派遣したヴァスコ＝ダ＝ガマが1498年にインド西岸のカリカットに到着し、これによりポルトガル商人による香辛料や香料の直接

取引とその独占への道が開けた。カリカットは、それ以前からインド西北岸の (17) (18) と共にムスリム商人の船による東方物産の積出港であった。1505年には、ポルトガルは (19) (20) に到着し、1517年に要塞を築いた。この地の主要作物はシナモンやカルダモンといった香辛料であった。この他にも、ポルトガルは多くの交易拠点を築き、1515年にはペルシア湾口にある (21) (22) を占領し、そこを軍事面でも交易面でも重要な拠点とした。

しかし、ポルトガルによる香辛料取引の独占状態も、1622年に (21) (22) がサファヴィー朝に奪われたことにより、消失した。その後17世紀半ばになると、ポルトガルはアラビア半島における根拠地を失った。18世紀になると、サファヴィー朝は、支配下に置いていたアフガン人勢力により首都が攻略され、1736年に (23) (24) 朝により最終的に滅ぼされた。

やがて、香辛料や香料は世界貿易の花形商品としての地位を他の物品に譲ることになる。しかし、われわれの生活の中で香辛料や香料は依然として重要な地位を占めているのである。

〔語群〕

- | | | | |
|--------------|----------------|----------------|--------------|
| 01. アショーカ | 02. アデン | 03. アフシャル | 04. アラム |
| 05. アルサケス | 06. アルデシール1世 | 07. アンティゴノス | 08. ヴァルダマーナ |
| 09. エピクテトス | 10. オウィディウス | 11. カージャール | 12. カニシカ |
| 13. 顔師古 | 14. 顔真卿 | 15. 韓愈 | 16. クイロン |
| 17. クシャーナ | 18. グプタ | 19. クルド | 20. ゴア |
| 21. 広州 | 22. 杭州 | 23. 膠州 | 24. サータヴァーハナ |
| 25. ザンド | 26. シーラーフ | 27. シャープール1世 | 28. 傷寒論 |
| 29. スーラト | 30. ストラボン | 31. 斉民要術 | 32. 性理大全 |
| 33. セイロン島 | 34. セレウコス | 35. 泉州 | 36. タキトゥス |
| 37. チャンドラグプタ | 38. チャンドラグプタ1世 | 39. チャンドラグプタ2世 | 40. チョーラ |
| 41. ティモール島 | 42. ドウッラーニー | 43. トリボニアヌス | 44. トルコ |
| 45. ナンダ | 46. 農政全書 | 47. バスラ | 48. ハルシャ |
| 49. フィリッポス2世 | 50. 福州 | 51. プリニウス | 52. プルタルコス |
| 53. ペルシア | 54. ベルベル | 55. ホスロー1世 | 56. ホラティウス |
| 57. ポリビオス | 58. ボルネオ島 | 59. ホルムズ島 | 60. 本草綱目 |
| 61. マカオ | 62. マスカット | 63. マドラス | 64. マラッカ |
| 65. マリンディ | 66. ラーマ | 67. リウィウス | 68. 陸九淵 |
| 69. 柳宗元 | 70. ルーム＝セルジューク | | |

問題 II

以下の問題文の空欄 (25) (26) から (37) (38) に入る最も適切な語句を語群の中から選び、その番号を解答用紙の所定の欄にマークしなさい。また、下線部に関する設問 (ア) (39) (40) から (オ) (47) (48) に対する解答として最も適切な語句を語群の中から選び、その番号を解答用紙の所定の欄にマークしなさい。

2008年には、ブラジルへの日本人移民100周年を記念する式典が日伯でおこなわれた。20世紀初頭から、ブラジルのみならずペルーやメキシコなどへも盛んに移民がおこなわれ、約34万の日本人がラテンアメリカへ向けて海を渡った。当時約2カ月の船旅を要した遠い大陸へ、なぜこれほど多くの日本人が移住することになったのだろうか。その理由を理解するには、15世紀のヨーロッパによるラテンアメリカ進出にまで遡る必要がある。

1492年にコロンブスが西インド諸島に到達すると、スペインとポルトガルは早急に自国の権益を確保する目的でトルデシリャス条約を結んだ。これは、(25) (26) 諸島沖の地点を基準に、その西側で「発見」された土地はスペイン領、東側についてはポルトガル領とする、という両国による独占的な世界分割の取り決めであった。その後、スペインからはコンキスタドル（征服者）が遠征隊を率いて新大陸に乗り込んだ。その一人であるエルナン＝コルテスはアステカ王国を滅ぼし、(27) (28) の任命をうけてヌエバ・エスパーニャ総督となった。同様に、フランシスコ＝ピサロはインカ帝国を征服した。インカ帝国は、(29) (30) 族が統治する、北は現在のエクアドルから南はチリ中部に及ぶ大帝国であった。

コンキスタドルと共に、多くのスペイン人がラテンアメリカに入植した。その数は16世紀の間だけで約24万人にのぼったといわれている。彼らの移動に伴い、さまざまな疫病がラテンアメリカに持ち込まれた。インディオはこれらへの免疫を持たなかったため、疫病の流行は甚大な数の死者をだした。入植者達はまた、スペイン語で「委託」を意味する(31) (32) や、^(ア)ポトシ銀山、^(イ)サカテカス銀山などの鉱山における労働でインディオを酷使したため、インディオ人口が激減した。16世紀から17世紀半ばまでの間に、メキシコ中部・南部でのインディオ人口は約6分の1に、中央アンデス地帯では約4分の1になったと推定されている。

インディオに代わる労働力として利用されたのが、アフリカからの^(ウ)黒人奴隷である。しかしスペインはトルデシリャス条約によってアフリカの海岸から排除されていたので、黒人奴隷獲得のための拠点をアフリカに持たなかった。このためスペインは、当時奴隷貿易を支配していたポルトガル、オランダおよびイギリスの商人と奴隷供給請負契約を結び、(33) (34) という供給権に基づいて奴隷を獲得した。また西アフリカ沿岸では、内陸の黒人をヨーロッパ商人に売り渡す黒人国家が出現した。現在のガーナ共和国の地に建てられた(35) (36) 王国がその例である。19世紀末までに、1千万人以上の黒人奴隷が大西洋を渡ったとされる。

ポルトガルが支配したブラジルでは、インディオ人口が少なく、散在していたため、スペインの支配地よりも黒人奴隷の需要が高かった。しかし1888年には、^(エ)奴隷制が廃止されたので、深刻な労働力不足が生じた。ここで安価な労働力として注目されたのが、ヨーロッパやアジアからの移民である。19世紀末から20世紀初頭にかけての時期には、イタリア、スペイン、ポルトガル、ドイツなどから約400万人がブラジルへ渡った。契約に基づく日本からの移民は、^(オ)神戸港からサントスへ向けて笠戸丸が出航した1908年に始まる。その後、1990年代までに約26万の日本人がブラジルへ移住した。

ブラジルでは、1929年の世界恐慌の翌年に政権を掌握した(37) (38) の下で、民族主義的な政策が採られ、日本人学校をはじめとする外国人学校が閉鎖された。このため、日系人は次第に現地社会に同化し、現在では約150万人が法律・政治・教育・医療などの分野で活躍している。

設問

- (ア) この銀山が所在する国の独立と建国を指導して、初代大統領に就任した人物は誰か。 (39) (40)
- (イ) この銀山から産出した銀は、フィリピンのマニラまで運ばれ、中国の絹・陶磁器と取引された。この貿易はそれに使用された船種の名前で呼ばれることもあるが、それは何か。 (41) (42)
- (ウ) カリブ海の 에스パニョラ島西部では、1791年に黒人奴隷の反乱が起こり、これがその後、独立運動に発展した。この反乱は何と呼ばれているか。 (43) (44)
- (エ) これに先立ち、アメリカ合衆国では1865年に憲法修正により奴隷制が廃止されたが、法による黒人差別は1960年代まで継続した。「合法的」に人種分離をおこない、人種差別を続けるための温床となった黒人専用の部屋や座席を意味する言葉は何か。 (45) (46)
- (オ) 1885年には、ブラジルと並ぶ代表的な移民先に横浜港から第一回移民船が出航した。この地では19世紀の半ばに立憲君主制が成立していたが、そこでの最後の国王となった人物は誰か。 (47) (48)

〔語群〕

- | | | | |
|-----------------|----------------|-----------------|--------------|
| 01. アシエンダ | 02. アジェンデ | 03. アシエント | 04. アシャンティ |
| 05. アタワルパ | 06. アンクル＝トム | 07. イーライ＝ホイットニー | 08. イクター |
| 09. イサベル1世 | 10. イダルゴ | 11. ヴアルガス | 12. ヴェルデ岬 |
| 13. エンコミエンダ | 14. オルメカ | 15. カネム＝ボルヌー | 16. カピオラニ |
| 17. カメハメハ | 18. カラック | 19. カランサ | 20. カルデナス |
| 21. カルロス1世 | 22. ガレー | 23. ガレオン | 24. 喜望峰 |
| 25. ケチュア | 26. サン＝ドマングの蜂起 | 27. サン＝マルティン | 28. サンジュの乱 |
| 29. ジェファソン＝デヴィス | 30. ジム＝クロウ | 31. シモン＝ボリバル | 32. ジャンク |
| 33. ジョン＝ブラウン | 34. ジョン＝ボール | 35. セク＝トゥーレ | 36. ダウ |
| 37. ダホメ | 38. チチメカ | 39. ティマール | 40. デウシルメ |
| 41. トウパク＝アマルの反乱 | 42. トルテカ | 43. パーニーパットの戦い | 44. ピエモンテ蜂起 |
| 45. ピノチェト | 46. ファレス | 47. フェリペ2世 | 48. フェルナンド5世 |
| 49. ブランコ岬 | 50. プロノイア | 51. ペロン | 52. ボジャドル岬 |
| 53. マクシミリアン1世 | 54. マヤ | 55. マルビナス | 56. メシカ |
| 57. メロエ | 58. モノカルチャー | 59. モノモタパ | 60. ラティフンディア |
| 61. ラブラブ | 62. リリウオカラニ | 63. ロカ岬 | |

問題Ⅲ

以下の問題文の空欄 (49) (50) から (67) (68) に入る最も適切な語句を語群の中から選び、その番号を解答用紙の所定の欄にマークしなさい。また、下線部に関する設問 (ア) (69) (70) から (ウ) (73) (74) に対する解答として最も適切な語句を語群の中から選び、その番号を解答用紙の所定の欄にマークしなさい。

科学の発展により、17世紀以降には様々な感染症に対して治療法や予防法が開発されたが、その当時の病理観や宗教的・政治的理由から受け入れられるために時間を要したことがある。ここではそのうち3例を取り上げる。

マラリア治療は17世紀前半に大きな転換点を迎えた。それは、劇的な効果を持ったキナノキの樹皮(キナ樹皮)がイエズス会によってアンデス山麓から持ち込まれたことによる。しかし、当時の医師たちは、マルクス＝アウレリウス＝アントニヌスの侍医を務めた (49) (50) によって集大成された四体液説に基づく病理論を信奉しており、「発熱というのは腐敗した体液によって起きるのであり、その体液を排泄しなければ解熱作用など起こりうるはずがない」として特效薬の存在を認めようとしなかった。高価なキナ樹皮が旧教徒に利益をもたらしたことも、新教徒の反発を呼び、普及の妨げとなった。このような状況が変化していくためには、後にピューリタン革命時に王軍の軍医を務める (51) (52) が1628年に『動物の心臓ならびに血液の運動に関する解剖学的研究』で、四体液説の根拠である生理学理論に対して実験による反証を行ったことや、(53) (54) がこの著作を賞賛・引用して演繹法や合理論を説いたことなどを通じて、医学分野にも科学的思考が定着することが必要であった。クロムウェルのマラリアによる死は防げなかったが、革命軍に参戦したシデナムがキナ樹皮の正しい処方を示したことや、チャールズ2世ら王族が投薬を受けたことにより、この薬が普及するようになった。マラリアの発生原因に関して、当時の人々はギリシア時代に示された「停滞した水が腐敗して病気の原因となる悪い空気(瘴気)を発する」とする瘴気説を信じていた。18世紀に低湿地が排水・開墾されると、温帯域ではマラリアが減少し、瘴気説は引き続き信憑性を保ち続けた。他方、熱帯地域においてマラリアは大きな脅威であり続け、列強の進出に伴い、キナ樹皮から抽出される薬効成分であるキニーネの需要は高まった。このため、キナノキは植民地で栽培されることになり、1852年には (55) (56) に世界最大のキナ園の建設が始まった。すでにこの地域からの撤退協約を結んでいたイギリスは、キニーネが独占されることを嫌って自国の植民地にもキナ園を作って対抗した。20世紀に入っても、世界のキニーネ供給はこの世界最大のキナ園に大きく依存していたため、入手が困難となった第一次世界大戦中のドイツや、第二次世界大戦中のアメリカでは代替合成薬の開発が進められた。マラリアが瘴気ではなく、ハマダラカ(蚊)によって媒介されることが明らかにされるのは1898年のことである。これに加え、1901年には、もう一つの熱帯性感染症である黄熱がネッタイシマカ(蚊)によって媒介されることが証明されたため、^(ア)蚊の防除が20世紀の熱帯地域における事業遂行に重要な位置を占めるようになった。

(57) (58) は感染力と致死率が高く、^(イ)フレンチ＝インディアン戦争時には敵軍内に意図的な流行を引き起こす作戦に使用されたほどに危険な感染症である。しかし、若くて健康なときに感染した場合は症状が軽く、回復した者は長く免疫を保つので、中国や中東では患者から子供たちへ人為的に感染させる風習があった。コンスタンティノープルに派遣されたイギリス大使の夫人が子供にこの処置を受けさせ、成功したことが知られると、イギリス王室は死刑囚と孤児を使って安全性を確認した後、1723年に^(ウ)王太子(後のジョージ2世)の二人の娘にこの処置を施した。これには病気を神罰と考えていた宗教界から「神の意志に反する」との批判が加えられ、普及の障害となった。『寛容論』の著者でもある (59) (60) がこの処置を推奨した時にも大きな批判を受けたが、彼と懇意だったロシア皇帝が家族や廷臣にこの処置を受けさせるなど、王室や軍を通じて普及していった。当時の方法では少数ながら本格的に発病・死亡してしまう危険性があったため、ジェンナーは同様の病気に感染したウシの膿汁を使った安全な方法を考案した。しかし、医師としての学位を持たず、当時社会的地位が低かった外科薬剤師の業績はすぐには評価されなかった。効果が認められた後も「人間に流れる真紅の血を獣から抽出した血清で汚す」といった反対を受けたが、最終的には全世界で実施され、

WHOは1980年にこの病気の絶滅を宣言するに至った。

19世紀にインドはイギリスの一元支配の下に入り、これによって活発になった軍・巡礼者・季節労働者の移動が、ベンガルの風土病であったコレラを世界へ拡散させたといえる。1817年に最終局面を迎えていた (61) (62) において、ベンガルから出陣したイギリス軍に感染者が現れたため、感染域は戦場であったインド中央部を経て西岸に到達し、アジア全域にわたる最初の大流行となった。1826年に始まる二回目の大流行ではヨーロッパを経由して新大陸にも広がり、以後、数次にわたって世界的流行を繰り返した。この当時のイギリスでは、都市部で急増した労働者が劣悪な状態におかれていたため、社会主義的な思想に基づいて女性や子供の労働環境向上に取り組むものや、「最大多数の最大幸福」を標語とした (63) (64) の考えを受け継いで社会改良を目指すものが現れた。前者の代表は1833年の (65) (66) に貢献したオーウェンであり、後者の一人としてコレラに立ち向かったのは1848年の公衆衛生法の制定に貢献し、初代公衆衛生局長に就任した (67) (68) である。彼はコレラがマラリアと同様に瘴気で感染を広げると考え、その源たる糞尿や汚水を効率よく流す下水道の整備をすすめ、衛生状態の改善を試みた。しかし、上水道や井戸には格別の注意を払わなかったため、実際には汚染された飲料水を媒介として感染を広げるコレラの流行を食い止めることはできなかった。

設問

(ア) 19世紀にフランス人が着手したものの、マラリアと黄熱で多くの要員を失ったことが一因となり、果たせなかった事業がある。20世紀に入って、蚊の防除対策を徹底した国が成し遂げた、この事業とは何か。

(69) (70)

(イ) これと並行してヨーロッパで行われた戦争の主たる目的として、領有が争われた地域はどこか。

(71) (72)

(ウ) 処置を受けた二人の兄で、後に王太子となるフレデリック＝ルイスは祖父の出身地に留め置かれたため、この時に処置を受けた記録はない。彼が居住していた場所はどこか。 (73) (74)

〔語群〕

- | | | | |
|-----------------|----------------|---------------------|----------------|
| 01. アダム＝スミス | 02. アリストテレス | 03. アルザス・ロレーヌ | 04. アンセルムス |
| 05. インド大反乱 | 06. インフルエンザ | 07. ウェールズ | 08. ヴォルテール |
| 09. ウォルポール | 10. オコンネル | 11. カーナティック戦争 | 12. カメルーン |
| 13. カレー | 14. ガレノス | 15. カント | 16. キューバ |
| 17. 教育法の制定 | 18. 結核 | 19. ケネー | 20. 工場法の制定 |
| 21. コンゴ川上流域の探検 | 22. ザール | 23. シク戦争 | 24. ジブチ港の建設 |
| 25. ジャワ | 26. シュレジエン | 27. シュレスヴィヒ・ホルシュタイン | |
| 28. ジョゼフ＝チェンバレン | 29. スコットランド | 30. スピノザ | 31. セシル＝ローズ |
| 32. 団結禁止法の廃止 | 33. チャドウィック | 34. チュニジア | 35. デカルト |
| 36. テュルゴー | 37. 天然痘 | 38. トリエステ | 39. ニューラナークの創設 |
| 40. ハーヴェー | 41. ハーグ | 42. バグダート鉄道の敷設 | 43. はしか |
| 44. パスカル | 45. パナマ運河の建設 | 46. ハノーファー | 47. ヒッポクラテス |
| 48. ヒューム | 49. フランシス＝ベーコン | 50. プロタゴラス | 51. ペスト |
| 52. ベンサム | 53. ボイル | 54. ホップズ | 55. マイソール戦争 |
| 56. マラータ戦争 | 57. マラヤ連邦 | 58. マルサス | 59. モンテスキュー |
| 60. ラヴォワジェ | 61. リカード | 62. リベリアの建国 | 63. 労働組合法の制定 |
| 64. ロジャー＝ベーコン | | | |

問題 IV

以下の問題文の空欄 (75) (76) から (87) (88) に入る最も適切な語句を語群の中から選び、その番号を解答用紙の所定の欄にマークしなさい。また、下線部に関する設問 (ア) (89) (90) から (カ) (99) (100) に対する解答として最も適切な語句を語群の中から選び、その番号を解答用紙の所定の欄にマークしなさい。

第二次世界大戦後、戦禍に見舞われた地域で多くの国々が独立、あるいは実質上第二の建国を果たした。しかしそういった国々は、その後も大国や周辺諸国の影響を受け、時には他国と対立し苦難の道を歩んだ。ここでは該当する多くの国々の中から、東欧とインドシナ半島の諸国の歴史を考えてみたい。

まず東欧では第二次世界大戦後、1947年末までに次々に親ソ政権が生まれ、1948年2月には、(75) (76) でクーデターが起こり、共産党政権が誕生した。これに対して西側諸国のイギリス、フランス、(77) (78) などは、ただちに反共軍事同盟の西ヨーロッパ連合条約を結んだ。またユーゴスラヴィアはソ連の干渉を拒否し、同年6月コミンフォルムから除名され、西側に接近していったが、1955年に一旦ソ連と和解した。その結果ユーゴスラヴィアと当時対立していた (79) (80) は、ソ連との関係が悪化しはじめていた中国に接近し、いわゆる中ソ論争でも中国を支持し、1961年にソ連と断交することになった。

スターリンの死後、ソ連、東欧諸国では1950年代、60年代において、自由化の兆しが見えたが、それは弾圧を受けることもあった。たとえば1968年に ソ連などワルシャワ条約機構5カ国による軍事介入 ^(ア) を招いて失敗したある国の自由化運動は、1989年12月に共産党が政権を追われ、(81) (82) が大統領になることでようやく実現していった。

東欧諸国の民主化は、ソ連における民主化の動きとともに実現したといえる。しかしユーゴスラヴィアのように、民主化が国の分裂・内戦につながる場合もあった。同国は (83) (84) が2006年に独立を宣言したことで、六つの共和国に分裂したが、その後も2008年2月にセルビア共和国内のコソヴォが独立を宣言した。

インドシナについては、フランス領インドシナ連邦が成立した時代にまで遡ってみたい。ベトナムでは、1802年に阮福暎がフランス義勇軍とタイ軍の助けを借りて統一を果たし、清を宗主国とした。ナポレオン3世の頃から領土的野心を強めていたフランスは、やがて清と対立し戦争が起った。両国は条約を締結し ^(イ)、ベトナムの保護権を認められたフランスは、1863年以来保護国としていたカンボジアとあわせて、1887年にフランス領インドシナ連邦を成立させ、1899年には ラオスも編入した ^(ウ)。ベトナムでは20世紀初めに近代化運動が活発となり、ファン＝ボイ＝チャウを中心に海外への留学を支援するドンズー運動が組織された。しかしこれはフランスとの協調を重視した日本政府によって留学生が追放されて挫折した。ファン＝ボイ＝チャウはその後1912年に (85) (86) を設立し、故国の独立運動を推進した。

第二次世界大戦後ベトナムは独立を宣言したが、フランスはこれを認めずインドシナ戦争が始まった。フランスはディエンビエンフーで大敗し、1954年に休戦協定を結ぶことになった ^(エ)。この休戦協定以後、新たに成立した 南のベトナム共和国 ^(オ) を支援したアメリカが、南ベトナム解放民族戦線や北のベトナム民主共和国と激しく戦うことになった。その後1973年の和平協定によってアメリカ軍は撤退し、1976年に北が南を統一する形で、ベトナム社会主義共和国が成立した。

同じく第二次世界大戦後独立したラオスでは、左右の政治勢力の対立により1960年代前半から内戦が本格化し、外国軍の国土侵入も招くことになったが、1975年にラオス人民民主共和国が成立した。カンボジアでは、第二次世界大戦後に独立してから、中立政策を基本に国家建設を進めた。しかし、1970年にクーデターを起こした右派勢力と、対立する左派勢力の間で内戦状態となり、1976年に 民主カンプチアの政府が成立した ^(カ)。1978年末にベトナムがカンボジアに軍を派遣し、翌年親ベトナム政権を成立させた。その後1989年のベトナム軍の撤退、1993年の国連の監視下での総選挙を経て、1998年に (87) (88) 政権が成立した。

設問

- (ア) ワルシャワ条約機構は1991年に解消された。最後まで加盟国であった国で、1960年代以降ソ連と異なる独自の外交姿勢を鮮明にして、この軍事介入に参加しなかった国はどこか。 (89) (90)
- (イ) この条約は第三国の調停によって1885年に締結されたが、その第三国も、他国と競って植民地を獲得しようとしていた。この第三国が、翌1886年に新たに植民地に加えたところはどこか。 (91) (92)
- (ウ) ラオスはインドシナ連邦に編入されたが、ラオスの王国は存続した。王国の名は何か。 (93) (94)
- (エ) 休戦協定を結んだ会議には、フランスが1949年に発足させたベトナム国も参加した。その時のベトナム国の元首は誰か。 (95) (96)
- (オ) 1954年に成立したSEATO 加盟国で、アメリカとともにベトナム共和国を支援して派兵した国はどこか。 (97) (98)
- (カ) 民主カンプチアの政府代表団は、1977年9月末に、民主カンプチア政府を支援する国の首都を訪問した。当時すでに国連加盟国であったこの国はどこか。 (99) (100)

〔語群〕

- | | | | |
|-----------------|-----------------|--------------|-------------------|
| 01. アメリカ | 02. アフガニスタン | 03. アルバニア | 04. イギリス |
| 05. 維新会 | 06. イタリア | 07. ヴィエンチャン | 08. オーストラリア |
| 09. カナダ | 10. カメルーン | 11. キューバ | 12. クメール |
| 13. ゴ＝ディン＝ジエム | 14. ゴムウカ (ゴムルカ) | 15. サムドラ＝パサイ | 16. シハヌーク |
| 17. スコータイ | 18. スペイン | 19. スロヴェニア | 20. ソ連 |
| 21. 大韓民国 | 22. チェコスロヴァキア | 23. チャンパー | 24. 中国 |
| 25. 朝鮮民主主義人民共和国 | 26. ティトー | 27. デンマーク | 28. ドブチェク |
| 29. ドンキン義塾 | 30. ナジ＝イムレ | 31. 西ドイツ | 32. 日本 |
| 33. ネ＝ウィン | 34. ハヴェル | 35. バオダイ | 36. パテト＝ラオ |
| 37. ハンガリー | 38. 東ドイツ | 39. ピブン | 40. ビルマ (ミャンマー) |
| 41. ファン＝チュー＝チン | 42. フランス | 43. ブルガリア | 44. フン＝セン |
| 45. ベトナム光復会 | 46. ベトナム青年革命同志会 | 47. ベトナム独立同盟 | 48. ヘン＝サムリン |
| 49. ホー＝チ＝ミン | 50. ホーネッカー | 51. ポーランド | 52. ボスニア・ヘルツェゴヴィナ |
| 53. マケドニア | 54. マダガスカル | 55. モンテネグロ | 56. ヤクブ＝ベク |
| 57. ヤルゼルスキ | 58. ユーゴスラヴィア | 59. ランサン | 60. リビア |
| 61. ルアンブラバーン | 62. ルーマニア | 63. ルクセンブルク | 64. ローデシア |
| 65. ワレサ | | | |